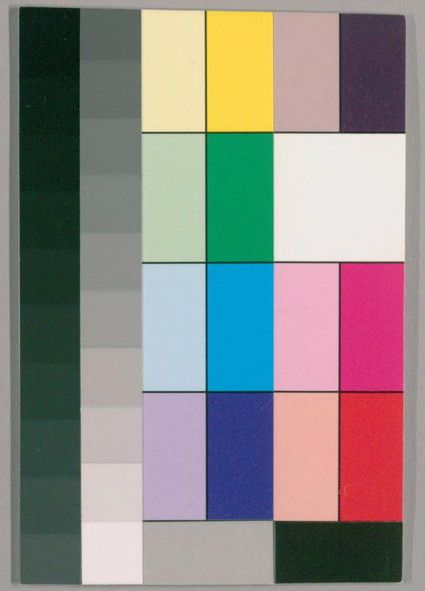


国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

大正
6. 4.13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

鵜飼

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

鵜飼

装束之覚

初シテ　面 笠ニ尉　尉髪　水衣　熨斗目　尉腰帯
腰蓑　扇　松明

後シテ　面小べシミ　赤頭　色鉢巻　唐冠　着付厚板
法被　半切　腰帯　扇

一セイニテ出松羽右侍
幕ノ上ヲ幕ノ内ニテ
二ツフリ舞直ス内ニ入
シテ柱ヨリシテ
ルトキ二ツ
フリ足ヨロシ
謡ノ

舞附

鵜舟をうとましと思ふ海人の投れやくちをしかふらん　実や世中をうしとや思ふ（サシ）さしも生ながらきふをとゞめ文を川に投つるの面ふさふ殺生をもるとりかさよ（ロ）鵜舟ゆらしもくやふしも月かちろく契りをかし夫婦二つの里となる（下）今乃まのうへ人も月

（上ノ）かぢをしやく悲み給ふか我をうれやそりくと目の夜次をいとる闇に成板を伝へて（下ノ）鵜松ふこゑたかく火も消てやみしやかくしけれ（上ノ）此たかりけるものわさとくと今ハ先非をらるゝ（ロ）ハ此来れ人のまて宿をかりゆくと禁制の里ハ（ロ）入れよ（ロ）さんハ性来の鵜をそれら里（奇切ナシ）是迄おゝ免とも叶とも余つらんとていとお労わきの場うさよ（ロ）いかそのとくハ堂よりうり鵜をやとめうもるよくハやこれハ性来れ人の（ロ）ハ入れよ（ロ）さんハ性来の鵜をそれら里（ロ）ハ入れよ（ロ）さんハ性来の鵜をそれら里（ロ）ハ入れよ（ロ）さんハ性来の鵜をそれら里

花小枝氏ハ堂ふこ海りてハ（シテ）実く里

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

まてお宿乗しせふまる者も覚へたれ
ワキ 扨は身ハ如ア成人まて渡りれぞ シテ さん
れ足ハうつくしまてれがいたも月の径
ハ此は堂にやたらい月入りて鵜を法
クいれ ワキ 扨ハ苦かしぬ人まてれぞやみ 正面ヘムク
中をハ不援鮮ま年たけ経いてれが
かゝ家教生のとき勿体なくれ気比わ
さをれと渡りあつてよ此わきにて
身命をはつきゝへかし シテ 仰ハ ワキヘムク まて
ゆへ其若年より此ときにて身命を投
かりれ経す今更と渡つゝ屋うもなく
れ シレワキ 如ア正面ヘムク ハ此人を見て思ひおし
たるものれ此二三ケ年先ハ此河下

岩落と中所を通りゝいしかか此乃
鵜つかひに行逢れ径に神の申乃殺生
よしをやうくゝぞ実もとや思ひさん
我屋につ連て帰り一夜けしかしに
をつしてゝひしよ シテ ワキツレヘムク 扨ハ其時乃
此僧にて渡りれか シレワキ さん人其時乃僧
まてれ シテ なしに 二足ツメル 其鵜法ないこそ実しく
成てゝへ ワキ それハ何也へ実しく成
てれそ シテ たつかし ワキヘムク なから此ときそ
て実しく成てれ其時の其様語り
て少せやうへし跡をとりて此やり
れへ ワキ 心得中れ 中へ行 中ニテ下ニ居松明右ノ手ニテ松明ノサキヲ下ヘ押付火ヲ
シテ 松明右ノ方ノ下ニヲキ正ヘ向ヘ柳トウタフ 柳此いさを河と
中ハ上下三里ノ間ハかしく殺生禁所

の所也今宿は岩落迄に鶴つかひハ多
しよなく此所に思ひのありけり
うをはかりよりに此者の志わきをかか
れをえあらわきんとたらみしけり
それをも愛にも知はして又其歌志
のびよりて鶴をつかふ孫らよ人々
もつとより一殺多生の理に濡りせ
かれを殺せといふあへり 上セル両ノ手合セカガム 其時たちの
手をあらせかく得殺生禁所の所を知
らはゝ 合掌ナリ二手共面少シ下ゲ 向坂の手を社心得さべけれとて
手を合を歎き悲しき先生たちなる人も
浪のそこにおしほ手下ゲ 此事にしたまへ 面下ゲ心持 さけ
べと色がいてハしそ 向ワキヘムク 其鶴はかいの妄

者にてハ ワキ 正面ヘムク 云語同所れ事にてハさら
バ罪障ぬんけに業力の鶴をつかふて
此みせゝへ語をハ ワキヘムク ねんころに弔ひ申ハ
べし シテ少面サゲ心持 あらな雖やハ 面直ス 此ハ業力乃鶴
をつかふて此目にかけゝべし跡をとふ
て給りそ ワキ 心得申ハ シテ正面ヘ向 既に此歌を
更迄そ鶴つかふ所にも成しかハいさ
業力の鶴をつかふん ワキセル 先ハ此国の物語
志たる人の業によりかく苦しみの
うれこさを今ハ得なれぶしきあよ
松明見右ニアル松明 松明二ツ三ツ程アリ シテ同右ノ手ニモチ立 志先ら續松ゆり立て ワキカケ 左ハ小ク立リナガラ扇ヌキヒラキ 中程横ニ左ニ持 茂の衣れた
またもき シテ同 うかこを開きとりおし
ワキ 正先キハ出ル 志まつはたちしあら鶴とを シテ同 右ノ方遠ク見 此河

扇ヲフリナゲ入様ニ
涙小さうつと殺せバ　上ヨリ正面ヘムキ松明フリナガラ出
面ゐのゝ水や庭　（正サシ廻シ
松明少シ前ノ上出シ　松明急ニフリナガラ追ヒ込ニテ
下ヲ見ナガラサシ足　左ヘ廻リ正面サキ迫リカラ上出シ
まくみもら姉大小あこ流く魚を追廻
横ニモチタル扇ニテスクヒ　千下ゲ右ヘ廻リ
ハしかけきの夢をさいあけ落ちく魚
をゐよ時そつくそ殺そ後の世そそ
面ナヲシ　正面サシ出シ　扇横ニモチナリ
れそく面ゐや　右ヲケ松明ニツニフリナガラ出シ
下ヲ　張ら水のよとゐ〳〵ハ
松明フリナガラ正
いきんの鯉やの母らん　サキヘシヲカニ出シ
ぬき小船あそ〳〵ゑせらゐそかく
みて魚そそもた姉〳〵ふ〳〵ハやかく
タイニフニテ見
り火のもく〳〵くもかけのそくもらハ
下ヲ見ナガラ左右ヘ正出シ
面ナヲシ　東方高ノ見　松明扇ステナガラ
思ひおうり月かゐり　三足程ハスリ西キニテナク
ぬる姉〳〵さよ
ニテ柱ノカタヘクルリ
猪ゐのかうり姉消て同船小ぬち
ニテ柱ノキワニテ左ヘトリ正面ヘヒラキカニニ入
弐升九ゐおゐ〳〵ちとゐかせん〳〵
ワキ上ヨリ
河波のゐをひろいあけ〳〵たゝ〳〵ハ

後仕手　笛ニテ出橋掛リノ松ノキワニテ正面ヘヒラキ謡
法の水鉦を一石小一字も書つけて涙ゐ
小名法名帰らてなとゝいう波さる
地ニテ上
光地獄をきかぬ〳〵眼
業の焔界無鬼外よかし〳〵称かの者
弥陀の誓ひ　扣江河の流つゝきて罪
おひ〳〵〳〵ふしぎ狭札うたをそし
笛ニテ拍子右ヘトリ込
金紙をそこゝろをおく　ヒ名　ヒ名
ヒ名　ヒ名　ヒ名
小遣銭を一つゝ一宿のゝり
ワキヲシカト見
きふうきゐき佛ホかおそらんと無
ゐをやそうけて称名をそそのみか
カル上面直シ舞台ヘ入
かし〳〵法華の水法九地ゐ私かゝり
シテ柱ノソバ
シテ正面ニヒラキ
火そうゝも乳父母　上地角ヘ行
シテ正面ヘヒラキたノ
遣いのあのさ
角取左ヘハリシテ
深雲そ　実相の風
中ニテ正面ヘヒラキたノ
あ〳〵吹ゝ〳〵

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

鵜飼

装束之覚

初シテ　面笑尉　着附厨斗目　水衣　腰帯ドンス
腰裳　松明　扇子　尉髪

後シテ　面小癒見　着附厚板唐織　半切　法被　腰帯紋付
鉢巻　赤頭　唐冠ヵ　大輪冠ヵ　扇子

仕舞附

志める續松ゆり立て　前の夜の重ねて移か
こを開き右出し　居立左ノ手ニ扇ヒロケ掛ケ　ヲヤ胸ヲ持　右ヘ回リ　立
右ヘ回リ　ハト左ノ腰引キ見　扇内ヘカヽ目付柱ヘ行
目付柱ノ方ヲ見　左ノコシ出シテカラ目付ノ処ヘ鼻ヲハナス心持ニテナケ出シ
下ヲ見左廻リ　扇袖折合魚ヲヲウ心持ニテ左ヘ廻リ　大小ノ前ヨリ扇袖合セ正先ヘツヽト出ル
扇スツト上ヘ上ケ　下ヨリ扇ニテスクイ上ル　右ヘ廻リ
シテ柱ノ先ニテ正ヘ直シ　扇ニテ
左ヒサラ折　正面ヘ出カケ
右ウケ　下ヲ向ツカイ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

ひくこうて矣ニテ見ル
ゐるせゝ程来まかるこうて矣ハよもたゝし
正面直シ
ゆきやかかり火焼きへてもの事の暗く
東ノ方見
かるハ思ひ出るり月ふかりぬるかかしさよ
二足アトヘ下リ面フセル
扇タヽミナカラ右ヘ持右回リ大小ノ前ニテ正面ヘ直シ
粉糸のかりかけ消く闇所ふ得る此事の
いろふせん迄ニ正面ヘ三足程出迄ニ三足ホトアトヘ下リ下ニ居ル
多ゆかしさとめるふせんし

五 鵜飼

甲内
是ハ安房の清澄より出る
僧なくば我未甲斐国とみれば
程ぞ此度甲斐国の所と
志くば 行末ハ河と白浪の
安房の清澄をもち出くば浦
の行ひ猶会山 上言 やはれ
果ぬる撮姿ウくとはる事ハ
ト ハ
是ハ恥しき此ハ 東加わり
の事甚瞳と枕の上にまさぐ都
ハル
留の郡の朝立も日をもくく
こゆる山のとぶらくさハ
よもやりく
一セイシテ
鵜舟にいもれ

一セイニテ出
松明右ニ持
幕ヲ上ヲ幕
ノ内ニテ二ツフリ
舞臺ノ内ヘ
入ルトキ
ニツフリ足ヲトメ言フ

篝火の後の闇路をいかにせん
実や世中をうしと思はゞすつへ
きにその心さらに夏河に鵜つかふ
事の面白さに殺生をするは
はかなさよ伝へ聞遊子伯陽は
に誓つて契りをなし夫婦二つの
星となる今の雲の上人も月
なき夜をこそ悲しみ給ふに我は
それにハ引かへ月の夜比をいとひ
闇に成夜を悦へハ鵜舟にとも
すかゝり火の消て闇路にかへる
名残をしかりける身の業こそ
く今ハ先非をくゆれともかひ

コ下
も浪あるに鵜ふねこく露ほし情
めぐり叶ぬ命つなぎてぞしか
む業の物うさよ

いつものめぐりト謡ナガラ右ノ方語松明フリナガラワキノ方へ出松明ニテサシ廻ス様ニノ見廻シや ト謡ヒ松明サゲテモチ居ル

付 いつものめぐりにて堂にあり鵜を体めうするにてなし

付 やゝ旅人
甲付 さしも殺生
其の人の由入よ
僧にて候が里にて宿をかり候へハ
禁制の由申候程に此御堂に
泊りて候
シテ 実〻里にてハお宿まいら
らせまする者ハ候まじ
ワキ 扨此
かゝる殊人まで深更ぞ
シテ さん候
是ハ鵜使ひにて候が此川も月
の程ハ此御堂に休み月入て
鵜をつかひ候
ワキ（正面ヘムク） 扨ハ昔しより人
まゝく候そや見申せは早接辞に

鵜一

年たけ給ひて候ふがかゝる殺生をなし
さ勿体なく候此業を御とゞ
まりあつて余の業にて身命を
継ぎ給へかし シテ（ワキへムク）仰尤にて候へ共
若年より此業にて身命を助
かり候ふ程に今更止まるべきやうも
なく候 ワキ（正面へムク）如何に申さば此人を見て思
ひ出したる事あり我は二三年
先に此河下岩落と申所を通
りし時かやうの鵜つかひに行
逢ひ候ほどに余りに殺生の由を
申て候へば案内を知らぬ旅人か我宿
を貸して通り給へとて我をかへし接待し
てくれしよ シテ（ワキツレへムク）扨は其時の御僧にて候ふ
かや ワキ さん候其時の僧
にて候 シテ（二足ツメル）其時の鵜つかひこそ空
しく成て候へ ワキ 其は何故に空し
く成りしぞ シテ（ワキへムク）恥かしながら此業
ふくやまみわくはせ時の有
摂待つかまつりし跡をとひて
たまり候へ ワキ 扨は始めて申しひ シテ詞 抑此石和
河と申は上下三里が間は堅く殺
生禁断の所なれども此岩落
辺よろつのひハ多し鵜かく
此所に思ひのかつく鵜を使ふ
所き者のまさきかにつかまを見

（中へ行 中シテ下ニ居 松明右ノ手ニ持 松明ノサキヲ下ニ押付ステケス 松明右ノ方ノ下ニシテ キ正ヘ向イ 柳 上謡フ）

殺さんしやうにぞせよとハ多
まも志つゝけて又ある夜忍ひて
つく鵜をつかふ所に人々立よつて
且一殺多生の理に任せかれを
殺せといひあへり（上羽　両ノ手合ヲガム）ーーーーーーー左右
の手を合せかゝる殺生禁断の
ーーーーーーー下ーーーーーーー
所共志らず候ふ向後の事を社（合掌ナリ二手並　面少シ下ケ）
ーーーーーーーーーーーーー
心得候へと手を合せ歎き
ーーーーーーーーーーーーー
悲しめ共助くる人も浪の底
ーーー（手下ケ）ーーーーーーーーー
にふしつけに沈めへハさてこそ（面下ケ心持）
ーーーー（内　ワキヘムク）ーーーーー
かくしてこそ鵜使ひの亡者
にて候
（内　正面ヘムク）言語道断の事にて候
さらば罪障懺悔に業力の鵜をつ

かふて見せ申へし跡をハ懇に弔ひ（ワキヘムク）
候へ（シテ次　西サゲム持）あら有難やさらハ業（西ナヲス）
力の鵜をとり出て御目にかけ申さん
跡をとふらひ給へ（ワキ）御物語ハ（シテ　正面向）既
よは移しり更とく鵜つかふ時に
うつるはさ業力の鵜をつかはん（ワキ）見ん
ーーーーーーーーーーーーーー
其あつかふ物語しる人の業によ
ーーーーーーーーーーーーーー
あはれ苦しきのうきうらさと思ひ
ーーーーーーーーーーー（シテ内　メイマツ尺右ニアル松明右ノ手ニ持）
ふかまれのつきさきよしめる續（松明ニツミツホドフリ）
松明振り立て藤の衣の玉襷（左ヘホクセリナガラ扇ヌキヒラキカケ　中ホド横ニ左ニ持）
ー（シテ内）ーーーーーーー（シテ内　石ノ方達リ尺ニ扇ハラリト）
さ　鵜籠を開き取出し（ワキニ正先ヘ出見）鳴
ーーーーーーーーーーーー
例おあう荒鵜ども（上）此川浪にさつと（ナゲタル振ニメ　正ヘサシ廻シ）
放せは　面白の有様や底よ（正面ヘムキメイセツフリナガラ出）

も見ゆる篝火に驚く魚を追ひまはし潜き上げすくひあげ隙なく魚を食ふ時は罪も報も後の世も忘れはてゝおもしろや漲る水のよどならば生簀の鯉やのぼるらん玉島川にあらねども小鮎さ走るせゝらぎにかだみて魚はよもためじ不思議やな篝火のもえても影の暗くなるは思ひ出でたり月に成ぬる悲しさよ鵜舟の篝影消えて闇路に帰る此身の名残惜しさをいかにせん

よそく

早上哥 此瀬の石を拾ひあげ妙なる法の御経を一石に一字書つけて浪間に沈め弔ひて

後シテ早笛

あしたうの海をさく 夫地獄遠きにあらず眼前の境界悪鬼外になし抑かの者若年の昔より江河に漁つくして罪おひましませしかば殺生数を重ねて金紙をよごしけるあひだ無間へおとすべきに堕罪をとゞむると一僧一宿の功力に引かへて思ふに仏果となるを悪鬼も縁をやりまゐらせて鵜舟を弘誓の船になし法華の御法の功力を舟篝火の陰ふかき

上歌 迷ひの雲も晴れおきさる雲も 実

桐の風わらく吹く　千里の外
も雲をはらはぬ月やおわしん
有難乃作半や奈落に志河じ
悪人と仏不ほとあるなるこそ
瑞桐のわらふ　法華ハ利益
深きゆへ魔乃に沉む群れ人と
かゝんとあり来りそれ　実者
難き誓ひの事ハ妙乃一字ハ極
りに　それハ浮うひの詞ハ妙
なる法にしらかれり　経とは
あるやあるかん　そ生聖教の
都かふく　河をなく　こもあ
く　唯一案乃徳によりて奈落

に志つこそそうりひりこそ悪
人乃佛果とゆんるのハ此縁の
ちうしあらしや　是と見か
生ときく時ハ　縦悪人成
ゆくも慈悲乃心とさうて
て僧會と作者とするなるは
その結縁に引生つて佛果業
提に至るへし　実性来乃利益
こそ他とせしくまちうし
あ生く

もしろ御ゆる舞火に驚く魚と近
まゝに潜上すとくひあぎ沼ゆるく魚と
かゝる時は罪も報もはゞ世も忘
出てくおりし物や　濃る水の
よくあらはまきれ鯉やの浮ん玉
鴻河よあらひ小鮎さ走るせらう
さまがらこて魚はよもまゝめしゆし
きやる舞火のもとくもつきの晴く
なるは思ひ出さり月に成めり悲
しさよ鵜舟の舞影消ぐ闇路
よゆるは分の名殊情さとめゆ
よをんく　河瀬の石と拾ひ
あぎくぶ成法の御經と一石に

一字出つきぐ浪のに沉め吊りて
あしらはうり海さらへぎく　夫地
獄をさまあらば眼前の境界悪
鬼がよあらに抑ゆの者の年の
宵よめ河海に漁つくさ罪あひ
きらしぎれ殘礼数とあらに金紙
とらこはまゝ無間のそこに
墮罪をへつと一僧一宿の功力に
引出ぐ急さ仏示にとく凡ゆ悪鬼
あ縁をやりきて鵜舟と弘誓を
の船にあらに法華の法法の助を
舟に舞火し浮ぶきしきれ
楽ひのおかさらきこ雲も　実

桐の風わたくかぐ吹く 上地 千里の外
も雲をしたくだ如の月やあらん
上地 ヤア 有難乃作事やだふ落にまゐ河じ
悪人と紙所にまゐ落なるこそ
瑞桐のあらたなに 法華ハ利益
深きゆへ麓乃に沉む群れとも
かゝりんゝあり来りそもり 上地 実者
難き哲ひのなが妙乃一字ハ極
りに 上地 それハ得うひの詞そ妙
なる法ゆらかれたり 上地 経とは
なしやなつかん 上地 そもそ聖教の
都かんふく 上地 二河をなく 上地 三も為
く 上地 唯一乗乃徳によりて 上地 ゆふ落

に志つこれそくうかひうこそ悪
人乃佛果とのんらすハ此縁の
ちからなりけや 下キリ地 是と見か
生ときく時なく縦悪人成
ゆくも慈悲乃んとさきうて
て僧會と作書せるなれは
その結縁に引生つて佛果業
提に到るべし 上 実性来乃利益
こそ地とそもしくへまちうら
なれ 上地

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

熊坂

装束之覚

初シテ　髪半目　花色エリ　黒アトシケ水衣　鍛子腰帯
　　角帽子　珠数
後シテ　面長昊ベシミ　長範頭巾　袴エリ　摩枝唐織
　　緋法被　袴半切　赤地金入鉢巻　長刀

初シテ舞附

ワキノ道行ノ里ヲ若汐日数永ノ返シ三幕上ゲワキ一向ヨビカケ名ノリ〳〵ト謡フ●コノ〳〵ノ内ヲ尋テ休ラウシヅカニ出●ト幕ヨリ出ル中ホドニテ足トメアレハヨイ〳〵ト正ニ向●モシ〳〵此方ノ少シ右ノ方ヲ面半ニテ見右ノ足少シクソロゲ●ト名ノリトワキ〳〵●アラ珍ラシヤ〳〵ワキ〳〵ニ足ツメル二足ツメズモヨシ●荒ノ森カヤ先〳〵少シハヅメブタイ〳〵入リ●出離生死ヲシテ柱ノ先ニテワキ〳〵向●ナレハヨイトノワキ〳〵ニ足ツメルツメズモヨシ●此吊ヒヲ正●タトヒ今名ハ正〳〵出●受取ババワキ〳〵ヨリヲ面下ゲ二足下ル面下ゲズワキ〳〵ニ足ツメテモヨシ●己向ハ面直シ先迎リ●拠リテ己ヲ名ノレシテ柱ノキワニテワキ〳〵向面下ゲル面下ゲズワキ〳〵向ヲリテモヨシ●さらバこゝ〳〵ト面直シ●さらバこゝ〳〵ト名ノラウヲモヲモテ〳〵トワキ訊リ時中〳〵行下ニ居正下ニ居ルトいうまでハきトワキ訊出ス故ニ少シ言葉ノ内切レル●さん〳〵ト此ハワキ〳〵●少此ぬきく〳〵ヅヽ面半ニテ正向ヘヨリ正〳〵身ヲ直ス●打ときこゑられルワキ〳〵●ア此ノ時ハ正●段〳〵ト成ワキ〳〵●あゝ情ナイ濃ヲ袂ワキ〳〵シカト見●ヲヽせうおきまろ〳〵内〳〵トリ正●さこそおもへ〳〵内〳〵トリワキ〳〵向少シ面下ル●去ぶん〳〵正●悪魔ヲ下ルワキ〳〵●されハ正●ヲヽを所トワキ〳〵●なき玄蕃面ヲ下ル打切ニ正●ヲヽ此ノ物語ワキ〳〵●ヲヽ体あれや少居立又少シ居立左ノ手ニテサシテモヨシ●我そまとろまん少シ面下ゲさらバト正〳〵直シナガラ立右〳〵トリ直ニ入ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

後シテ舞附

出羽一段幕上ゲ長刀カタゲ右一ツウケ出一ノ松ニテ右アミ込ナガラ長刀ヘ左ノ手ソヘ長刀前ヘヲロシ一ツ切ル心ニテ長刀ノサキ下ゲヒラキ長刀一ツツキ左右ト見込シ●巻吹ク正ヘ直シ長刀カイ込ヤフミメニ足出ヒラキ長刀ツキ●打切ノハツイヤニテ左ヲ引長刀一ツ前ヘ出シツキ左ヲ引ヒトヘ身ニナリ月ハ出テモ上ヲ見●切入ト右ヲ引長刀カイ込右ノ下ヲ見又面正ヘ直シニ三足出●茶後ヲ下ネ〳〵ト左ヲフミヒラキナガラ左ノ手ニテ大キクサシ込シホニ長刀ヘ左ノ手ソヘ右ヘ小廻リメぐルバウテト幕ノ方ヘ右ノ足大キクフミヒラキ幕ノ方ヘ面キリシカト見●人ノ宮ヲ左ヲ引長刀前ヘ出シヒトヘ身ニナリ舞望ヘ入巻ノ段ヲヨトワキヘヒラキ長刀ツキ浅ましゃ〳〵や長刀ヘ左ノ手カケナガラワキ正ノ方向長刀肩ヘアテ長刀ヘヨリカヽリウツムキ居ル●拙ヤ三条の面直シ誠ナガラ長刀カイ込左ヘトリ中ヘ行床机ニカヽル●誰ぐ面ヲニテワキヘ向●殺ヤ〳〵ようヽ正ヘ直ス●おやておニハ兵ひか〳〵面ヲニワキヘ向●殺ヤ玉まハ正ヘ直ス●三条の九帝面ヲニワキヘ向●か宮の正ヘナラス●氏長をん右ヲ少シ引正ヲシカト見テウケ出ス●吉次ヶ正ヘ身ヲ直ス●ひきてもヒ巴方ヨ右ノ方向右左右ト面ツカイ見●萩ヤ更切左正ヘ身ヲナラス●かまうけて面ヲニワキヘ向●をこ〳〵ヤ正ヘ直ス●もや入ト面ヲニワキヘ向●いか社絶ヤ正ヘナラシ右ヤシ引●ハヽトけれ ソれてを絶ヤ入トけれ 流行我にそまとは松明を●あけてこ〳〵右ヲ引正ヲシカト見左ノ肩ヘアゲ左ノ手ニテ大キク正ヘ立ツヲナゲコミ移れ入ラト右ノコシヲ引心ニテ正ヲシカト見 いきをひハやゞや〳〵津ヤ面をおく

左ヲ引君立正ヲシカト見●強れ古正ヘ身ヲ直ス●おく嫁をん煮乳入絶るのうけ水をやき変左くバ左ヲ引正シカト見●面ヨをくむ長刀ヘ左ノ手ソヘ下ノ方ヲ左ヨリ右ヘサシ込シナガラ右ノ方向下ノ方ヲ右左右ト面ツカイ見●その外をおひ居立橋カヽリノ方をタ見傘中リト来ル二カヽル●絶吸リよやう正ヘナラス●人名ヲ左ハ〳〵ヤ傘の長刀カイ込ナガラ左手ヲ下ノ方ヘ立左手ハナシ正先ヘ出●打ヘこて長刀抜ヨ先き右ヘトリシテ柱ノ方向ヒラキ長刀一ツツキ●うゝぬくゝや長刀ツキナガラシテ柱ノキハ行打ちゃトシテ柱ノキワニテ左ヘトメ絶吸号ル心持ニテ面下ゲ左ヘトリ正向長刀一ツツキ返シヨリ面ヨニテワキ柱ノ方ヲ見大ナリニテ拍子フム拍子フム ●絶吸秘術を長刀左カニヘニ持長刀ノ先下ゲ右ヲフミ込右フミ込ナリニ長刀右カニヘニ持カ右ノ手ヲノ上ヘアゲ長刀ノ先下ニテノ右ノ足引右ヘ悪カヘリナカラ長刀カブリ左ニ拍子フムぶゝりぶゝ●いゝかりも魔鬼神ゝとも長刀ニテ一ツキリヲロシ左ノ足引ナガラ右ノ手ニテ長刀左ノ手ニモチヌル先ヲ持左手ハナシ目付柱ノ方シカト見左ノ手左ノ方ヘ高クアゲ角ヘツカヘト行角ニテ左ヲフミ込中ヲ抓テト左ノ手ニテ下ノ方ヲツカミ左足ト一ショニ上ヘアゲ微塵まり〳〵ト左ノ足ニテ拍子フムト一ショニ左ノ手ニテ下ヘナゲウケ左ノ足引右ノ下ヲシカト見●ら〳〵ろる面キリ左足リ●左ゝヘトシテ柱ノキワニテ行ナリニ左ニテトメ入テ左〳〵ト左ヘフリ返リ一ショニ左ノ足ヲ上ヘ高クアゲフミモドメヒヨシヌ左ノ足ヲ引左ヘフリカヘリテモヨシ●例の長刀長分ヲミテ左ノ手ヲ一寸ソヘカイコミコニハ心持アリ●杉妻声を左手

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

上ヨリ一ハイニノバシ手ノヒラヲソラメワキノ方ヘアテワキノ方ヲシ
カト見●彼小男をヒトヘ身ニナリワキ坐ノ方ヘ身ヲシヅメソロく
出カケ●右刀抜そバ発行ナリニ右ニテ一寸トメ歩ニ右ヲ引左ノ手
ヲロシワキノ方シカト見夫ヨリソロくシテ柱ノ方ヘアトシサリニ下リ
●待ゆ能仮そシテ柱ノキワニテ左ノ手長刀ヘカケ右ヘキリヽ
ト廻リナカラ右カマヘニ持上ヨリ一ツキリ長刀一ツツキ出シ
歩ニ長刀カブリワキ坐ノ方ヘソロく出カケ●ゆらゆらつて行
ナリニ歩ニ右ヘ飛上リナカラ長刀下候ニ持スグニ拍子すぐくを
ふくてつへきを長刀一ツツキ出シ歩ニカブリ上ヘ高ク上ゲ正
先ヘツカくト出つく長刀をト長刀ニテ上ヨリ下ノ方ヘツキハ
つしト長刀左ノ上ヘアゲナカラアトヘタラくト下リ下タヨリ
小太刀ニテ長刀ヲハ子ラレタル心ナリ●ちまへこをバシテ
柱ノキワニテ右ヘキリヽト廻リ長刀上ヨリ下ヘ一ツキリ左ノ
ヒザタテ右ノヒサツキ下ニ居立ワキノ方向比然右ヘ廻ラズ飛
上リ下ニ居立テモヨシ退急をりさしワキノ方ヘスヽミナガラヒ
ザ立カヘ長刀カフリ又立カヘ長刀下ヘヲロシ又立カヘ長刀カ
ブリ又立カヘ長刀下ヘヲロシ志む長刀ニ長刀右ヨリ左ヘ少ク
スクフヤフニイクツモツカイナガラ立ワキノ方ヘ行ひくりト
のれハト長刀ノ刃ノウチニナルヤフニ手ヲ下ノ方ヘクレリト返
シテワキノ方ヘ出シ志むきまなくしト長刀カブリ志ずつ
てひけハトアトヘ一足ニ二ツ三ツトビ上リ又左右ノ足ヲ
タガイチガイニケタツルヤフニシテカブリナガラアトヘ下リテ
モヨシめてへこをを目付柱ノ方シカト見ナガラ左ノヒザ
ツキ右ノヒザタテ下ニ居立長刀左ノ方ヘノケ退え歩してト
立右ノ足引長刀持カヘ左カマヘニテ刃ヲ上ニ上ヘ高クアゲヒ

トヘ身ニちやうと切ハト正先ヘ出テ右フミ込ナカラ上ヨ
リ大キク一ツキリ中ってむすふをおとく手ニ長刀
右カマヘニ持歩シ左ヲフミ込長刀ニテ右ノ上ニテ一ツムス
ビ下ヘサゲ下ノ方ニテ一ツムスビ歩ニ下ヨリ目通リノ上ヘ高
クアゲ歩ニ上ヨリ大キク下ヘナリヲロシクへつて拂ヘハ
飛上つて長刀左カマヘニ持ナガラ左ヲ引左ヘ飛返リ下ニ居
立又右カマヘニ持歩シ右ヘ飛返リ下ニ居立ワキ正ノ方向そ後
尺ヘをワキ正ノ方ヘ左右左トヒザ立カヘスヽミナガラ右左右
左ト面ツカイ見うをてト立●夜やりしこワキ正ノ方ヨリ
地訊坐ノ方ヘ長刀ニテ大キクサシ廻シナガラ見廻シ左ヲフ
ミヒラキ又ワキ正ノ方ヘ見返シ又正面ヲ見ナカラソロく
正先ヘ出カケ●ちやうときれハ正先ニテ飛上リスグニ安
座飛上ラズ比ヨシこハいりま立右ノ足一ツフミ出シ右ヘト
ヒカヘリナガラ大小ノ方向居立右ノヒザツキ左ノヒザ立ルス
グニ立左ヲ引長刀右ニカイ込大小ノ前ヘ行●いへ其ヒ命の
大小ノ前ニテ小廻リメ正ヘヒラキ無念あるト左ノ手上ヘ高
クアゲ左ノヒザ一ツ打●打そのわさにて叶ふまし打
返ノハツイヤニテ左ヲ引長刀前ヘ出シ一ツツキ●まえ
まをんとてシテ柱ノ方ヘクツロキ長刀ツキナカラ行長
刀なけ抜シテ柱ノキワニテ長刀ヲ見テ下ヘステ大手を
ひろけ左ヘトリ地瑞ノ方向両手大キクヒロゲテ行●か
しこの又ワキ正ノ方向両手ヒロゲ行退クけ又ワキノ方
ヘ向数手ヒロゲナリニ高クアゲツカくト行ナリニヲサヘ
ル心得ニテ下ヘ両手ツキとらんとまれとも歩ニ右ノ上ヲ
フリ向キ両手上ヘアゲ右ヘ飛上リ下ニ居立両手ツキ蜻蛉

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

上ヲ見ナガラ兩手上ゲ名ノ目立アトヘシザリをよそれも大小ノ前ニテシザリナリニワキ正ノ方へ向ヒテキ兩手ヲ合セ●次キ〳〵小正ヘナヲシキテレテヲモデヲイメルコロ持返シヨリ正ヘ出カケ●カラもよわくシテ拄ノ方ヘアトシザリニメラ〳〵下リよわり沙てシテ拄ノキワニテワキ正ノ方向ベタリト安坐メ左ノヒザ兩手ニテカヘ面下デこの松ノ多面亜シ向ヲ見テウタフ●苔の落葉と立たヘトリワキヘ向テ出●末の世合掌ノ下ニ居●ゆくりなや立右ヘトリ亜ニ右ノ手少シアゲ右少シウケルヤフニメシテ拄ノキワヘ行シテ拄ノキワニテ右ヲノリ込柏子赤股の松陰は洩れけり右ヘキリ〳〵ト巡リ正向下ニ居スクニ立右ウケ二足ツメ入ル

又

●長刀カイ込出羽一段幕上ケ右一ツウケ出一ノ松ニテヒラキ東面ふと淫出ス●楫ちの名右ウケ右左右ト面ツカヒ見●ゑ恨ひの正ヘ亜シ少シ出ヒラキ●月出てもなヲ川正ノ上見●切入ま正ヘ亜シ向ヲシカト見●着後をトおし正ヘ少シ出左ニテ大キクサシ回ニシ右ヘ少シ回リ公をくろうてト右ヲ大キクフミヒラキ幕ノ方シカト見●入めたく〳〵を左ヲ川右ノ手前ヘ出シヒトヘ身ニナリフタイヘ入足ヨ後せよトワキヘヒラキスクニ下ニ居淺まゐヘト長刀面テニテモテ双ヲ内ニメヒザヘアテ正向安坐メ面下ケ居ル●抑えシ名の淫ナカラ右刀右ノ前ニスゾカイニ下ニラキ面直ニ正向ヲル●後くて面ヲワキヘ●抑ふ彩の面直ス●芭ひおし面ヲワキヘ●抑ふまよハ面直ス●ニ名のかふ面ヲワキヘ●か賀の面面直ス●忙長そん右ヲ少ヲ川正ヲ見●右沙ヲ通る正ヘ直ス●ふきも居左右ウケ右左中ト面ツカヒ見●抜も更彩ハ正ヘ直ニ安坐●名ふかけて面ヲワキヘ●おしも面直ス●もや今足と長刀ヲ見テ面手ニテ持左カイ込ヒラキ久しぐれ返ニヨリクツロキ●笠ヲ立ちふと左ヘ右ノ足カケテワキ正ノ方向キナカラ見回ニ少ニ出カケ●おけ込〳〵右ヲ大キク川左ノ手右ノ肩ヘ大キクアケ正ヘ立ツヲナケ込ミ●ふるひふやく袂も面をむくヘさ左ヲ川正ニカト見●袂れ名も左ヘ回リテ拄ノキハニテワキノ方へ右フミ込ナカラ長刀左カテヘ持又右カテヘ持直シテカラ右ヲ川上ヨリ一ツキリ長刀下段ニ持ちくふしん虎乳ヘ笠名のかけりの名をくるきせあたく〳〵長刀右ヨリ左ヘスクフ様ニイクツモツカヒナカラワキノ方へ出●面ふまく〳〵むワキ坐ノ前ニテスクニ長刀カイ込角ヘ行●同し拇ふ角トリ下ヲ右左中ト面ツカヒ見左回リ●おうくみてニテ拄ノキハニテ左ヲ川幕ノ方シカト見●然ははやう正向●くるりてはふもおくしぬまくさも正ヘ出来本附同断

又

●ねくしそのくをしやう常ノ通拍子フミ切とふれヨリ右ヘリ込然ば秘術ニ長刀カイ込左ヲ川角ヲシカト見テ左ノ手左ノ方へるクアゲ角ヘ行中ふ祇て角ニテ左ヲフミ込左ノ手ニテ下ノ方ヲツカニ右ヲ川左ノ手右ノ肩ヘアケ向ヘナゲツケスクニ左ヲ川角ノ下ヲシカト見折れこるトスクニ右ヘトリ橋カヽリへ向大キクヒラキスクニ橋カヽリへ行行ナリニ左ニテトメテてク〳〵しト本附ノ通リフリカヘリ例の長刀川そそめり妻戸をふたてふおて此処本附ノ通リニヲ彼出男をヒトへ身ニナリワキ坐ノ方見込テ身ヲシツメロ〳〵トー松一テ出シテ拄ノソトヨリワキ坐ヲシカト見込左刀抜そはめ左ノ手ヲロシロ〳〵アトシサリニ下リナカラ然ばもまくトを刀ふ手ニ右カてへニモナ上ヨリ一ツキリスクニカヘリ

フタイヘ入行ナリ二右ニテトメいらつくくト長刀下段ニナカラアトヘ大キクヒラキ左ノ足ニテ拍子一ツとろくをふこ
笠同断

又

●例の長刀引そめ右フミ込ナカラ長刀左カヽへ持直ニ取ナラこ右ヲ引長刀カイ込仕アト同断

又

●うつくく伸くくと発ゐうつくく然左右へ発返ル処発カヘラズニ左右ヒキリ〳〵ト出リ下ニ居左テモヨシ

又

●そのまゝろろ〳〵仕処ヒサタテ面ツカヒ見ルナシニスク二左テ向ヲ見テモヨシ

又

●留のさゞめそ〳〵をゐるふ出リノ正へヒラキ長刀ツキ込念ゐるトキ刀へ左ノキカケワキ正ノ方向少ク二足下リナカラ長刀カタへアテ面下ケ居ル歩初ゐさゞめて面直ニ面ヲニテ正ヲ見返ニ左ヲ引長刀前へツキ長刀ヲシカト見ル笠同断

又

●大ゐをゐろけ出謡ノ方向両手大キクヒロケ行がしこの又ワキ正ノ方向両手ヒロケ少シ行スグニ目付柱ノ方向返りけ両手ヒロケナリニツカ〳〵ト行ナリニ発上リクニツキタルヤフニノ下ニ居左ろけろふ上見ナカラ両手サゲル笠同断

熊坂

北家来之覚

初シテ　髪半目　花色エリ　黒フトジケ水衣　段子腰帯
角帽子　珠数

後シテ　面長男ベシミ　長髪頭巾　鉢エリ　摩板唐織
鉢法被　鉢半切　赤地金入ノ鉢巻　長刀

初シテ舞附

●ワキノ道行ノ笛も多ゐ日新ル小ノ返シニ幕上ケワキ〳〵向ヨヒカケゐふ〳〵ト謡フ●こゐとめゐ少てゐうシツカニ出●アとゐともヤホトニテ足トメゐれよ足へとる正へ向●そこしばゐの少シ右ノ方ヲ面ヲニテ見右ノ足少シクツロケ●只今ヤワキへ●ゐ〳〵紙そやゐワキへ二足ツメル二足ツメズにヨシ●苔伽ともなや左へ少シハヅメブタイへ入●出離生死をシテ柱ノ先ニテワキへ向●それまよゐものワキへ二足ツメルツメズにヨシ●ゆゐひを正●たゐとゐこそゐハ正へ出●愛執そてワキへ●それそ面下ケ二足下ル面下ケズワキへ二足ツメテモヨシ●早向て面直シ左回リ●抑そて已向ゐれシテ柱ノキハニテワキへ向面下ケル面下ゲズワキへ向ヲリテモヨシ●さゝハこゐふ之面直シ●さゝハこゐふゐふるそゐいトワキ詞トキ也行下ニ居正下ニ居ルトいかヤ夢きトワキ詞出ス故ニ少シ言葉ノ内切レル●さゐいは伽ハワキへ●必滅ゆこゝろくヘヅ面ヰニテ正向夫ヨリ正へ身ヲ直ス●打そをこそまゐワキへ●ちゐの附ハ正●ゆゐえゐワキへ●ゐんはうあさましきワキへシカト見●ちやうかき内へ

トリ正●ちこそおうし内へトリワキへ向少シ面下ル
●去かう〳〵正●名乗を ワキへ●されハ正●名を仰と
ワキへ●ゆるさぬ面ヲ下ル打切ニ正●うやうやの面
詞ワキへ●お供有れや少居立又少シ居立左ノ手ニテサシ
テモヨシ●我もまさ詞少シ面下ケさ〳〵ハト正へ
直シナカラ左右へトリ直ニ入ル

後シテ舞附

●出羽一段幕上ケ長刀カタゲ右一ツウケ出一ノ松ニテ右ヲ
ミ込ナカラ長刀へ左ノ手ヘ長刀前へヲロシ一ツ切ル心ニ
テ長刀ノ先キサゲヒラキ長刀ツキ東南ヘト謡出ス
●指あのまや右ウケ長刀一ツツキ左右ト見回シ●名乗
ひろ正へ直シ長刀カイコムヤフニメ二三足出ヒラキ長
刀ツキ●打切ノハツイヤニテ左ヲ引長刀一ツ前へ出シ
ツキ左ヲ引ヒトへ身ニナリ月を出ても上ヲ見●切
入ト右ヲ引長刀カイ込右ノ下ヲ見又面正へ直シ二三足出
●赤後をト初シト左ヲフミヒラキナカラ左ノ手ニテ
大キクサシ回シ直ニ長刀へ左ノ手ソへ右へ小ヲリメ名をら
むろてト幕ノ方へ右ノ足大キクフミヒラキ幕ノ方へ
面キリシカト見●人のたう〳〵を左ヲ引長刀前へ出シヒ
トへ身ニナリ舞台へ入見ル詞せよトワキへヒラキ長
刀ツキ浅ましや長刀へ左ノ手カケナガラワキ正ノ方高
長刀肩へアテ長刀へヨリカヽリウツムキ居ル●あゝ
ら系の面直シ謡ナカラ長刀カイ込左へトリ中へ行床机ニ
カヽル●詞〳〵そ面ヲニテワキへ向●お安くよう正へ直ス
●おゝておかハ並ひかし〳〵面ヲワキへ向●都の正直
ス●見るふうくハ面ヲワキへ向●扨ハ安都の正へ直ス●こ
ゝめかる面ヲワキへ向●かゝるの正へ直ス●此もちん
右ヲ少シ引正ヲシカト見テ謡出ス●若狭ケ正へ身ヲ直
ス●会きくも四方よ右ノ方向右左右ト面ツカイ見●扱
も更ハ正へ身ヲ直ス●名かかけて面ヲワキへ向●もこ
し〳〵も正へ直ス●もやハと面ヲワキへ●いふ〳〵そ松も正直
シ右少シ引●女しきれいかゝ〳〵そかとも久し〳〵そ
物我さ祀るとなる●かけこみ〳〵右ヲ引正ヲシカト
見左ノ手右ノ肩へアゲ左ノ手ニテ大キク正へ立ツヲヤゲト
込乱もスルト右ノコシヲ引ニテ正ヲシカト見いきがいや
ふやく祝も面をむく左ヲ引居立正ヲシカト見●約もそ
正へ身ヲ直ス●若しや虎乱入花色のうちうめる
をそ〳〵紀麦たく〳〵ハ左ヲ引正シカト見●面ふせそむ長
刀へ左ノ手ソへ下ノ方ヲ左ヨリ右へサシ回ヲナガラ右ノ
方向下ノ方ヲ右左右ト面ツカイ見●その外もあひ居立橋
カヽリノ方遠ク見余そろ〳〵ト床机ニカヽル●熊坂いふ
やう正へ直ス●人るふてハなむ物かし●盗も含の
長刀カイ込ナカラ左ノ手ヲナシ左ノ手ハナシ正先へ
出●引んこてもカ杖よ落さ右へトリシテ柱ノ方向ヒラキ
長刀一ツツキ●うし〳〵ろ泊〳〵く長刀ツキナカラシテ柱キ
ハへ行引ろるウトシテ柱ノキハニテ左ニテトメ熊坂おも
うやうヲモウ心持ニテ面下ゲ左へトリ正向長刀一ツツキ
返シヨリ面ヲニテワキ柱ノ方ヲ見失ナリニテ拍子フム
こしそろ〳〵やる切ともかしもさそろ〳〵し●熊坂
秘術を長刀左カてへ持長刀ノ先下ケ右ヲフミ込右フミ込ナ
リニ長刀右カてへ持カへ右ノ手及ノ上へアゲ長刀ノ先下ニ
メ右ノ足引右へ飛カへリナカラ長刀カフリ直ニ拍子フム
ふふなるも●いりかる天魔鬼神ありとも長刀ニテ
一ツキリヲロシ左ノ足引ナガラ右ノ手ニテ長刀左ノ手
ニモケタル先ヲ持左ノ手ハナシ目付柱ノ方シカト見左

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ノ手左ノ方ヘ高クアケ角ヘツカ〳〵ト行角ニテ左ヲフミ込中小柄ヲ左ノ足ト一ニヨニ上ヘ上ケ後磨ホカ〳〵ト左ノ足ニテ拍子フムト一ニヨニ左ノ手ニテ下ヘナゲツケ直ニ左ノ足引右ノ下ヲシカト見●うたまてる面キリ左リ回リ●なよりトシテ柱ノキハニテ行サリニ左ニテトメテ〳〵ト左ヘフリ返リ一ニヨニ左ノ足ヲ上ヘ高ク上ゲフミモドシテモヨシ亦左ノ足ヲ引左ヘフリカヘリテモヨシ●例ノ長刀長刀ヲ見テ左ノ手ヲ一寸ソヘカエコミコニハ心持アリ●おり筆ヲ左ノ手上ヨリ一ハイニノバシテノニヲヲソラメワキノ方ヘアテソキノ方ヲシカト見●彼小男ヲヒトヘ身ニナリワキ生ノ方ヘ身ヲシヅメソロ〳〵出カケ●左刀抜そハめ行ナリニ右ニテ一寸トメ直ニ右ヲ引左ノ手ヲロシワキノ方シカト見参リソロ〳〵シテ柱ノ方ヘアトシザリニ下リ●まちかふ然ハもシテ柱ノキハニテ左ノ手長刀ヘカケ右ヘキリ〳〵ト回リナカラ右カヘテヘ持上ヨリ一ツキリ長刀一ツキリ出シ直ニ長刀カブリテ坐ノ方ヘソロ〳〵出カケ●ゐるゐる〳〵つく行ナリニ直ニ右ヘ飛上リナカラ長刀下段ニ持スクニ拵ヲさくをゆてつなさも長刀一ツキ出シ直ニカブリ上ヘ高クアケ正先ヘツカ〳〵ト出つく長刀ヲトル長刀ニテ上ヨリ下ノ方ヘツキ〳〵ト長刀左ノ上ヘアケナカラアトヘタラ〳〵ト下リ下タヨリ小太刀ニテ長刀ヲハネラレタル心ナリ●ちるへむやえシテ柱ノキハニテ右ヘキリ〳〵トハリ長刀上ヨリ下ヘ一ツキリ左ノヒザタテ右ノヒサシヲ下ニ居左ワキノ方向此処右ヘ出ラズ飛上リ下ニ居左テモヨシ返然そうさんワキノ方ヘスミナカラヒザタテカヘ長刀カブリ又タテカヘ長刀下ヘラロシ又タテカヘ長刀カブリ又タテカヘ長刀下ヘラロシまいもカふ長刀右ヨリ左ヘ少クスクヤ

ウニイクツモツカヒナカラ左ワキノ方ヘ行ホ〳〵ともの
ヨハト長刀ノ刃ノ内ニナルヤフニ手ヲ下ノ方ヘクレリト返シテワキノ方ヘ出シそもむきふかしト長刀カブリあろてなげそトアトヘ一足ニニツミツトビ上リ又左右ノ足ヲタガイチガイニケタツルヨウニシテカブリナガラアトヘ下リテモヨシめてへこびを目分柱ノ方シカト見ナカラ左ノヒザツキ右ノヒザタテ下ニ居左長刀左ノ方ヘノケ返ヲ逆シそト左右ノ足引右刀持カヘ左カヘニテ双ヲ上ニメ上ヘるクアゲヒトヘ身ニナリちやうと切そト正先出テ右フミ込ナガラ上ヨリ大キク一ツキリ申ありてむを海をかとく〳〵ふ共刀右カヘテヘ二持直シ左ヲフミ込右カニテ右ノ上ニテ一ツムスニ下ヘサゲ下ノ方ニテ一ツムスニ直ニ下ヨリ目通リノ上ヘるク上ケ直ニ上ヨリ大キク下ヘキリラロシクつく伸く〳〵飛ありつく右刀左ガヘテヘ二持ナカラ左ヲ引左ヘ飛返リ下ニ居左又右カヘテヘ二持直シ右ヘ飛返リ下ニ居左ワキ正ノ方向そのほくろ〳〵ワキ正ノ方ヘ左右左トヒザタテカヘスニナカラ右左右左ト面ツカイ見うせてト左●ちやかしこワキ正ノ方ヨリ地踏生ノ方ヘ右刀ニテ大キクサシ通シテナカラ見回シ左ヲフミヒラキ又ワキ正ノ方ヘ見返シ又正面ヲ見ナカラソロ〳〵正先ヘ出カケ●ちやうとそ通ハ正先ニテ飛上リスクニ安生飛上ラズモヨシこハいりにた右ノ足一ツフミ出シ右ヘ飛返リナカラ大小ノ方向居左右ノヒザツキ左ノヒザ左ルスグニ立左ヲ引右刀右ニカイ込大小ノ前ヘ行●いへたて命の大小ノ前ニテ小尸ヲ正ヘヒラキ左ヲ右ト左ノ手上ヘるクアケ左ノヒザ一ツウツ●おおびにてサふ面しお返ノハツイヤニテ左ヲ引右刀前ヘ出シ一ツツキ●ほえふちんこてシテ柱ノ方ヘクツロキ右刀ツキナカラ行右刀右ヲ拵シテ柱ノキハニテ右刀ヲ見テ下ヘステ大キヲヲ引ケ左ヘトリ地踏ノ方向右手大キクヒ

ロゲテ行●いーこの又ワキ正ノ方向右手ヒロケ退リ行又ワキノ方へ向右手ヒロゲナリ二ラクアゲツカくト行ナリ二ラサヘル心持ニテ下へ右手ツキ三ラんとゑま」とて直ニ右ノ上ヲフリ向キ右手上へ上ケ右へ飛上リ下ニ居左右手ツキ蜻蛉上ヲ見ナカラ右手上ケあの月立アトへシザリふとゑまて大小ノ前ニテシザリナリニワキ正ノ方へ向ヒラキ右手折合●水車くく小正へ直ニキラレテヲモテライタル心持返シヨリ正へ出カケ●ちくくもよりシテ柱ノ方へアトシザリニタラくトテリうたり込テシテ柱ノキハニテワキ正ノ方向ベタリト安坐メ左ノヒザ右手ニテカヘ面下ケこの松ヲ招面直ニ向ヲ見テリタク●苦の落言ト立左へトリワキへ向テ出●まへの世合学メ下ニ居●りよつもも立右へトリ直ニ右ノ手少シ上ゲ右少シウケルヤフニメシテ柱ノキハへ行シテ柱ノキハニテ右ヲノリ込指子左脇の松気ふ馬れまり右へキリ〳〵ト廻リ正向下ニ居スクニ左右ウケ二足ツメ入ル

又

●長刀カイ込出羽一段幕上ケ右一ツウケ出一ノ松ニテヒラキ右ホ小く遠出ス●指ものるや右ウケ右左右ト面ツカヒ見●をゆびう正へ直ニ向ヲシカト見●切入ま正へ直ニ向ヲシカト見●前後をトおし正へ少シ出左ニテ大キクサシ廻ニ右へ少ヒリをとらうてト右ヲ大キクフミヒラキ幕ノ方ニカト見●人のたくを左ヲ川右ノ手前へ出シヒト〳〵身ニナリフタイ〳〵ハ気ぬ境せよトワキへヒラキスクニ下ニ居法まやト長刀右手ニテモテ双ヲ内ニメヒザへアテ正向安坐メ面下ケ居ル●扇そこ糸の流ナカラ長刀右ノ前ニスビカイニ下ニヲキ面直ニ正向ヲル●後くを面ヨワキへ●扇ゆくうしろ面直ニ●華ひおし面ヨワキへ●扇久彼の面直ス●是のカう面ヨワキへ●かゑの如ハ面直ス●三法の方う面ヨワキへ●かゑの如面直ス●七ちん右ヲ少シ川正ヲ見●左次ヲ通ル正へ直ス●ミまるも居立右ウケ右左中ト面ツカヒ見●花もえの八正へ直ニ安坐●公かけて面ヨワキへ●おしも面直ス●もや入まとも長カヲ見テ右手ニテ指立カイ込ヒラキ久しぶり返シヨリクツロキ●皆ゑれもふと左へ右ノ足カケテワキ正ノ方向キナカラ見回ニ少シ出カケ●おけ込〳〵右ヲ大キク川左ノ手右ノ肩へ大キクアケ正へ立ツヨナケ込ニ〳〵ニまひかふやく飛も面ヲむ〳〵へと左ヲ川正ニカト見●給是とも左へ出テシテ柱ノキハニテワキノ方へ右フミ込ナカラ長刀左カヘニ持又右カヘニ持直ニナカラ右ヲ川上ヨリ一ツキリ長刀下股ニ持ちくふしん虎乳〳〵能多のかけのまとくらまぜめたくく〳〵ハ長刀右ヨリ左へスクフ様ニイクツモツカイナカラワキノ方へ出●面ヨもくむワキ坐ノ前ニテスクニ長カカイ込角へ行●同〳〵抱ふ角トリ下ヲ右左中ト面ツカヒ見左ロ●ふうくおけてシテ柱ノキハニテ左ヲ川幕ノ方ニカト見●給ゆいおやう正向●入るおてはよもおのくしぬそとも正へ出此求本附同断

又

●おくしそのらとーやう常ノ通指子フミ切ニふたヨリ右へノリ込給仮松粥ニ長刀カイ込左ヲ川角ヲシカト見テ左ノ手左ノ方へ高クアゲ角へ行中ふ抓て角ニテ左ヲフミ込左ノ手ニテ下ノ方ヲツカミ右ヲ川左ノ手右ノ肩へアケ向へナゲツケスクニ左ヲ川角ノ下ヲシカト見折

ヨロ〳〵ト右ヘトリ橋カリヘ向大キクヒラキスクニ橋カリヘ行行ナリニ左ニテトメテクセ〳〵シト本附通リフリカヘリ例の長刀引そゐめおり書戸をふたてふれて此処本附ノ通リニメ能小男をヒトヘ身ニナリワキ坐ノ方見込テ身ヲシツメソロ〳〵ト一ノ松ヘテ出シテ柱ノソトヨリワキ坐ヲシカト見込左刀抜そゐめ左ノ手ヲロシソロ〳〵トアトシサリニ下リナカラ態度も長刀かまへト右刀面手ニ右カヘヘニモチ上ヨリ一ツキリスクニカフリフタイヘ入行ナリニ右ニテトメいらうてト長刀下段ニシナカラアトヘ大キクヒラキ左ノ足ニテ拍子一ツさそ〳〵をふこ此末同断

又

●例の長刀引そゑめ右フミ込ナカラ長刀左カヘヘ持直ニ取ナラシ右ヲ引長刀カイ込此アト同断

又

●くつろ〳〵舞いろ〳〵此処左右へ飛返ル処飛カヘラズニ左右足キリ〳〵下ニ居立テモヨシ

又

●その後〳〵此処ヒサクテ面ツカヒ見ルナレニスクニ立テ面ヲ見テモヨシ

又

●宮のさゝめそ出会ふる小ヨリメ正ヘヒラキ長刀ツキ出会ふるト長刀ヘ左ノ手カケワキ正ノ方向少クニ足下リナカラ長刀カタヘアテ面下ケ居ルおゐさゝめそて面直シ面斗ニテ正ヲ見返シニ左ヲ引長刀前ヘツキ長刀ヲシカト見ル此末同断

又

●大ゐをおろけ地謡ノ方向両手大キクヒロケ行がしこの又ワキ正ノ方向両手ヒロケ少シ行スグニ目付柱ノ方向返リけ両手ヒロケナリニツカ〳〵ト行ナリニ飛上リクニツキタルヤフニノ下ニ居立リけろふ上見ナカラ両手サゲル此末同断

代主

装束之覚

和ニテ　面小牛扇　肩髪　小格子唐枝　シケ水衣
大口　綴子腰帯　白骨扇　袴帯　雉波茶金高断
襟

連　直面　放髪　額半目　大口　紋付腰帯
寄水衣　襟　白骨扇
後ニテ　面カラヒ男ニテモ　赤地金入錦巻　黒出　透冠　襟
段厚板　大口　狩衣　紋付腰帯　神扇

ニテツレ内

●真ノ一セイ扇モチニテノ先ニ立出テ一ノ松ニテ足トメニテト向合ツメ足メ萬歳のト謡イ出ス●ちうよきて謡キリ正●笹水之ニテ向●鳴もかし謡キリフタイヘ入中ヘ行正●多祢や比ゐニテ向●おそ西まで乃比ルノ字ヨリシテトヘカワリ目付柱ノキハヘ行正向立ラル●来拍子もて名そ萬歳の神此手切ニたヘトリ笛ノ上ヘ行下ニ居ルニテ入ルトキ立アトニツキ入ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

初ニテ舞附

●真ノ一セイ杉帰右ニカタケ扇前ニサシツレヲ先ニ左高砂ノ通リニ出ツレト向合ツメ足メ莚体ノト謡イ出ス●ありとよそてト謡イキリ正●笠ヲ左ツレト向合●風もかし〳〵謡キリ杉帰ヲロニ右ニ下ケテ持フタイへ入少シ出此処老松ノ通リ下リ大ツレノヲキヲキ小ツレノヲキヲハ不構笠ハ右ヘ捨ル此ルノ字ヨリ入カワリ中ヘ行正●そんれんワキへ●そと我田正●ゆらゆてたのワキへ●実〳〵笠ハ正●杉来まく〳〵ふワキへ笠ヲとなをと二足ツメル●来依ゆても正●浦代をもりの右ウケ●ゆやもり〳〵そノ〳〵正へ直ニ出●治りてヒラキ打切ニ身ヲ直ス●ふと見氏も左ヒリ●ふけそ春うらまるニテ柱ノキハニテワキへヒラキ返シニ中へ行ワキへ向ナリニ下ニ居クリノ打カケニ正へ直シテカテ帰ステ前ニサシタル角ヌキ持正水衣カタラロス●初をもつてもワキへ打切ニ正●山ゝ見ヲをワキへ打切ニ正●卯月のそらのワキへ●ゑ〳〵振正●学をもりワキへ打切ニ正●我ゝそハワキへ●そとゆやう代正●来代もこゝワキへ●いとゆ神体を正へ直ニ立●治りて者をゆゝ名ワキへ●葛城や右へヒリ●天の戸ふらセ給ひゝクリニテ柱ノキハニテ正へヒラキ返シニ入

後ニテ舞附

●出羽二段幕上ケ出ノ松ニテヒラキ向〳〵そゝくのト謡イ出ス●向ゝ面白の正へヒラキ●者をとゝふ右ウケまふく叶ふ〳〵正へ直ス●まゝみゆの正へヒラキ●者をめゝ〳〵左右ト両袖ツユトリナカラフタイへ入此ツユトル処老松笛ふるゝ処ト同前ニテ柱ノ先ニテヒラキタツハイ神ていノアト廻リ下リ左右打込にヲキ打切ニクツロキ●向ゝゝ者ゆりくさや正へ直ス●上下莚氏正へヒラキ●和万葉来右ウケ●そゝゝでんの楽ゝでゝ伝正へノリ込にヲキ●まるこそゝゝの角へ行●来賀ゝゝん角トリ左へ回リ●松風来大小ノ前ニテ小呂リメ正へヒラキ●ゝゝ〳〵〳〵と〳〵〳〵なり〳〵右へル●いつれを要左ヲウケルヤフニメ左ノ手ヒロケ正先へ出左ノ足フミ辻左ノ袖ヘキ込左ノ足フミヒラキ右ノ足左へカケテ大小ノ方ヘカラ右ノ袖ヘキニテ柱ノ方へ面キリヒトへ身ニナリテ行ニテ柱ノキハニテ小呂リメ正へ両袖ナケテ袖モトヲヒラキ左ノ袖カヘシ右ウケ二足ツメトメ柏子フミ袖モトヲ角タヽミ入ル

合浦

装束之覧

初シテ　面童子　黒頭　襟　鉢巻　縫箔　水衣
　　腰帯　扇

後シテ　面　白頭　鉢巻　着附厚板　法被
　　半切　腰帯　扇　鮫神　臺輪

子供ノ時ハ　直面　白垂

初シテ舞附

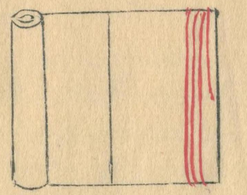
●本越一セイ扇モチ右一ツウケテ出ブタイノ内ニテヒラキわさつミのト謡イ出ス●いかに此屋の内にワキヘ向●日もたやられて正●よし浜の方ワキヘ●一夜の宿をかしまへ二足ツメル●たゞかの鶴の正●床さへ恐れをワキヘわきそこが二足ツメル●ぶぢ笠の正●たのむ木陰かや右ウケ●一樹の陰れ正ヘ直シ出●此もあらぬヒラキ●一河の右ヘ廻リ●そ情をハシテ柱ノキワニテワキヘヒラキ返シニ中ヘ行キワキヘ向下ニ居●何と見ゆをとも正●今ハ何をかワキヘ●今をつかれ急ぐをし正●たゞぬ宮とワキヘ●合浦にはいらせ居立●前なる正ヘ直シナカテ立渚の波の正ヘヒラキ●いるよとうへつるが右ヘ廻リ●ゐれゐして見るをり シテ柱ノキワニテ正ヘヒラキ返シニ中入テイ序ニテ入ル

後シテ舞附

出羽二段幕上ケ扇モチ右一ツウケ出一ノ松ニテヒラキ詠女ハ此宮のト謡フ●変成就の正ヘヒラキ●奈落やな

らくのそこ此 ●なと余忍の正ヘヒラキ ●浪立さ
いきたノ袖カヘシサシワケ右ヘ足リ直ニブタイヘ入 ●何ら
かれたるシテ拄ノ内ニテヒラキ数拍子フミ舞働[redacted]
[redacted]アトシテ拄ノキワニテ小足リメ正ヘヒラキ
其こそ志ぶの玉此 緒の返シニ扇ヒラキ角ヘ行 ●安命
長命角トリたヘ足リ ●二世の花を花発中ニテ正ヘヒラキ
●是よなれや正ヘ行カヽリ ●織つる後のサシ足シヒラ
キ 玉ハ二度 ひくる浪の角ヘ行角トリワキ坐ヘ行
ワキ坐ヨリサシテシテ拄ノ方ヘ行 シテ拄ノキワニテ小足リメ
正ヘヒラキ たノ袖返シ右ウケ二足ツメトメ拍子フミ入ル
●働段ノ処長上ルヲナシニ小足リメ玉ニ右左ト二ツ正ヘバスル

海士



如此ク紐ヲ経ノ
袖ヘ巻キ軸ト袖ト
両方ヨリ巻寄セ
持チ出ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

海士

装束之覚

・装束附植田平六正聞合ノ外後シテ橋姫ヲ用ル時ハ黒頭也

初

面 深井 近江女　襟 浅黄　着附 花色のしめ　腰巻 縫入箔

腰帯 縫入　シテ水衣 白カ 浅黄カ　鎌　無色扇子 黒骨

鬘　同帯 無色　ミル 杖ノ葉ヲ用ユ　水衣ナシニ腰巻斗ニテモ

後

面 同　鬘　同帯 うろこの衣　着附 白地箔 赤地うろこの衣

大口 紫カ 緋カ　舞衣　黒垂　腰帯　ツマ紅扇

経 蓮台トモ　後面橋姫ヲ用ル是ハ習ノ由

子方

着附 箔　白大口　狩衣　腰帯　小形烏帽子

白骨扇

子方之附

・次第ニテ出ワキト向合 次第不謡 地次第ニ正 ・あらわれ(?)向合

・泊り定めぬ海士小舟ト謡切リ正 ・そこう(?)の浦(?)ワキ坐ヘ

行床机ニカヽル ・やあ是社(?)シテヘ ・此方如りて(?)右ニテシヲル

・なら(?)母やあん(?)正 ・猶ハいやしきシテヘ ・よし

迚(?)も正 ・子(?)くハシテヘ ・此海(?)を右ニテシヲル ・只

むかしは(?)正ヘ直ス ・ねて(?)も此方(?)シテヘ ・此筆の跡扇ステ

シテ扇ワタスヲ取リ ・立浪の下ヨ正ヘ直ス ・此巻を(?)

すゝて(?)此扇ヒロゲナガラ真正面ウケ見テ謡出ス ・いさ

弔らん扇タヽミ本ノ通リナヲス ・あら嬉しや(?)シテヘ向

・済度正 ・シテ経持来ル時シテヘ向左デ経トル ・タツ

ハイ舞ニカヽルト正向 ・初段テ経タヽミ懐中スル ・今(?)

此経のシテヘ ・追シニ正 ・終リシテノアトヨリ入ル

・ワキ弔ハん扇タヽミ本ノ通リ直ス外シテヨリウケトリタル扇ヲタヽミ本ノ通リモチ居ル自分ノ初ヨリ持出タル扇ハシテヨリ扇ウケトルトキ右ノ下ヘステヽモ又前ヘサシテモヨシ先入ルトキモヤハリシテヨリウケトリタル扇ヲモチテ入ル

・ひとつの利劍を拔持て彼海底に（扇前ヘ出シ右ノ下ヘノケ見）（コシヲ引立テ向ヲシカト見）（立正先ヘ入リ込）

又 飛いれハ（此末同断）

・ほとりもしらぬ海底にそも神変もいさ（右足リ）（シテ柱ノ先ヨリ足リ下リ）（足リ）（モ一ツ）

又 しらす取えん事ハ不定なり（正向扇ト手ト打合ス尤扇スボメナリニ打合ス）（此末常ノ通リ）

・宮中を見れハそのたかさ三十丈の玉塔に（中ニテ正ノ上ヲ見シヅカニ正先ヘ出）（右フミ出シ左ノ手上ケ正ノ上ヲ見）

又 彼玉をこめをき香花を備へ（左ノ足ツメ）（角ヘ行）

・彼玉をこめをき香花を備へ（ムテザシナシニ扇ニテ上ノ方サシ半ヒラキニテ角ヘ行）（此末同断）

又

・去にても此儘にて別れはてなん悲しさよ（正ヘ直シ）（左ニテシヲリ）

又 と涙くみて立しか又思ひ切て手を合（手下ゲ）（右ノ方ヘ合掌）（此末同断）

・龍宮の中に飛入れハ左右へはつとそ（扇ヒタイヘアテ正先ヘツカツカト出足トメ少シ前ヘ左右ト）（音ノセヌ様ニトビ左右ト足引ナガラ見込ス）（此末同断）

又

・龍宮の中に飛入れハ左右へはつと[illegible]（扇ヒタイヘアテ正先ヘツカツカト出足トメ高クトビ上リ）（下ニ居立左右ト足引ナガラ見込シ）

又 とそ（此末同断）

・逃んとすれハ守護神おつかく（扇前ヘ出シ持ハシカヘリヘ）（ツカツカト行足トメ）（フリカヘリ見）（右ヘ下リ）

又 てたくみし事なれハ持る（ツカツカトアタイヘ入リ）（中ニテ扇トリ直ス）

劔を（此末同断）

又

・[illegible]の[illegible]やか（アトヘメラメラト下リ中程ニテ下ニ居纏イタヾク）（此末同断）

玉ノ段仕舞

・其時人々力をそへ給と謡フ ・ひとつの扇前ヘ出シ 此末能ト同断 ・去にても此末小別れもて あん此処シラズ面下ゲ右ヘ足リ ・思ひ切りて 面直ス ・此末能ノ通リ ・うらひおよう

ト留ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

又カマ持ズニ初ヨリ肩ニテモスル其時一拵ノ処ハカマノワザト同断違イ目ヲ記ス

●河ら波なやりト中ニテ子方ヘ向キナガラ下ニ居正ヘ直サズニ少シ面下ゲ子方ノ謡ヲ始終キヽ居ル●しもんとてもちて来ぎまゝ切ニ正ヘ直ス此末カマノワザト同断

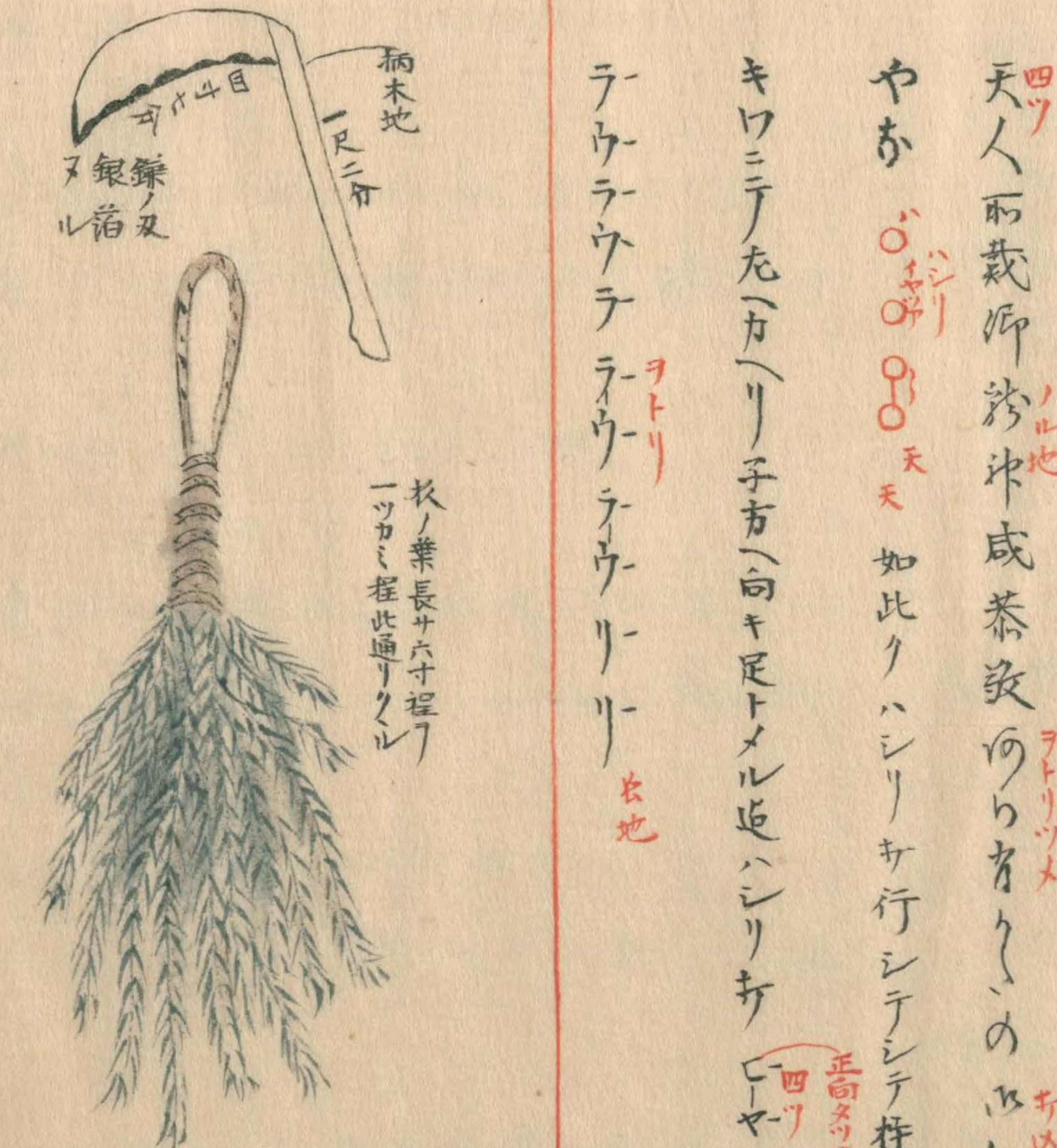
右ハ昔ワザニテモナシカマニテモカマナシニ肩ニテモスルカヽニテハ大臣ノ謡フ時カマトリ肩ヌイタリスレバ心モ散リテ宜シカラヌ故初ヨリ肩ニテスレバ大臣ヘノ思入レモ出来氣モ散ラヌ故肩ニテモカマニテモスル由ナリ

舞ニカヽル処鼓身

天人所栽沸沸咸恭致河ら有くこの次經
(四ツ)(ノル地)(ヲトリツメ)(打込)

やか
(ハシリ)(天)(天)
如此クハシリナ行シテシテ柱ノキワニテ左ヘカヘリ子方ヘ向キ足トメル迄ハシリナ
(正面タツハイ舞ニナル)(四ツ)
ヒーヤーウ

ラーウラーウテ ラーウーテーウーリーリー
(ヲトリ)(太地)



一吉ニテ出シ足トメトメ海士の足ヨリスヽトヽ渡リナガラ足ヲ出ス柱ノ内ニテ足出

サミル左ノ栞指ト小指ト二本ニカケテ持 ミル左ニ持カマ右ニモチ手下ゲ幕ノ内ニテ正ヘツウケ一声ニノ句キヽ出ル

一セイシテ 鎌臺ヘ入シテ柱ノキワニテ足トメウタイ出スナ扇前ヘサス

舞附

海士乃刈る藻に住む虫のわれからと

ぬらん袂の色は志渡の浦寺ち
(左右ト二足下ル)

かき里の海人

まては

花の咲草も聞し何をみるめかゝるよ
(面下ゲ心持)(打切ニ面直シ)

からてそもこよを南川のし塩海
(下ガ)(右ウケ)

くみて流れあしの世を送るわざ

かれハ如何しともいひつきあまの、
(右ノ方ヘ三足出)

里の海らんし
(返シニ正)

めのふ見なる女お
(ワキ向)

をハ此うらの海士のてあるか
(シテ向ワキヘ)

なくらん

此浦のうつき北海士のてへ

かつまの
(ワキ正)

あまならハあの見をつめをうりて来

らせくへ（シテ面下ゲ）痛をしや猿つかれう（面直シ）ゑそ
屋まもるかや我子を里とゆかれど
然し此田舎のそてふかし（ワキヘ）此や雲の上人
をたらめ居れくへ（ミルヲ寸見ミルヲカマノ上ヘノセテ）（詞）かゝ近を始し（ワキ方ヘ出 二足ツメル）此尺
るめをたれくへ（ワキ詞）（二足下リナガラ正）いやしき風のうめ
まてハおしあの所庭此月を此後ならふ
みる先志けりてさきりとなれハ前の
けよとの此後なり（シテワキヘ）扨八月の為なり
の事よとの此後かや（正）昔をさるためし者
時陳をこの沖まて新文へいられしをか（正ヘ二足ツメル）
つきあけしを此浦の（上句）あ田うつ月を
みち汐の（返シヨリシツカニ出）ゑら先をいさやから（ヒラキ）
よよ（△地次第ニクツロキミルメラ後見坐ヘナケウウハト右ノ方ヘツカヘト出）（ワキ詞）（足トメ少シ下リ正）時何と時陳をかつきあけしを

此うらの海人にて有とゆう（シテ詞）（ワキヘ）さん人此浦の
海人にてん（右ノ方ヘ向）又何遠なる里をハあまれ里
とゆて彼海人人の住ゐいし也所にてん
又（正ヘ向）先海ハ彼国を近何げ始て見ゆし
まゝりて（ワキヘ）新しき国海と出て新陳海とゆ
ハ（ワキ正）扨其国の名ハ何とゆけるそ（シテ）国中ハ
釈迦の様まし浦ハ何方とり知ゝなれども
同し面なるまゝりて（ワキヘ）おもてをおりしかり
ゑおりはとりいて而同名者の国とゆハ
（ワキカル）（正）かゝとの家を何とそかん朝とりそわらし
けるぞ（シテ詞）今の大臣法海公の此妹ハ庭士
宮家金帝の后にたしをあしゞされハ其此
氏ちなれハとて興後寺へ三の家を渡さ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ゝく花原磐泗濱石面向不肖の至二の室ハ
京若し明珠ハ此仲まで於家へとられ
しを大臣（ワキヘ）勢をやつし此浦まりゆひ
稱しき海士乙女と契りをこめ一人の小
子をまもりくなりの房海の大臣（ワキヘ二足ツメル）是なり
（大臣子方ノ謡ヲキイテ子方ヲ見テ二三足下リ子方ヲシカト見）
厦何是ナモ房海の大臣よあらなつかし
の海士人やあらばし給りこへ（シテ）あらば何
とそなやなり近ハよそのるゝと社思ひつ
るふ（乱ヲ引立子方ヘ乱ヲカケテ中ヘ行）海ハ勢のうへまてこひ焦るそや荒（面下ケ下三居正一直）
（シカマステ扇ヌキ持正南大臣ノ謡ヲキヽ居ル）役なやく（大臣）みつから大臣の勢と生れめく
ミひらけし後の門されたなにかゝるゝハ
此身稱りて母知らはある時亡心給りて
いらくこゝそ此母ハ漢君恵後のうら房

海のあまりトをハ恐れありとて云葉をのこは
（子方ヘ）さてハ稱しき海士の子志づの兒のもらふ名
りけるそや（上前）しそれとてもちゝ有ゝ小（折切三正）く
志はし有るを目の光り面影の思ふ有り
まやと（子方シテヘ向テカラ子方ヘ向）思ふハ草稱来りしり荒なつかし
の海士人やと此浦を流しまへを（シテ上）実（面下ケ謡フ）
なき海士ころもまりてもぬらは我そてを
（シカト子方ヲ見）かなそ有て志得れとや（左三テシヲル）こゝけなのりまや（折切ニ手下ゲ）
（又子方ヲシカト見）ゝ家老人の稱しき海士の脇内にやと
りまゝを一世なるは（乱ヲ拳正一直シ）たとへを日月乃ま
ゝすみまうつりて光陰をまはしてなり
（面下タヘトリワキヘ向）これらをこそ海士の子孫（ワキヲシカト見）とさらへ
（大臣ノ方ヘ直シ）さんハことをたろうや（子方ヲシカト見）我君の母なりに似ゝ

もの思ひの袂涙の雨川を隔てゝいとゞ
やあるの（面下心持）お玉の名をハたゝ汐ま
（第四面直ス）ぜそもものふ小波玉をうつき上ゲ〳〵夢を市
松とそゝまかりて（面ヨリ）消ようにゆく
（ワキ）さらばとまかりてその間ようにゆく（正）
時あゝとやよなき比玉をゑ好ぎから八氏
子を代つきの八位よあゝ〳〵更ゝとや急うハ
手綱ゆるしと（面少シ下ル）御八枝の四
（面直ス）へ様ん家〳〵家屋をおゝ〳〵〳〵とおひ
その鑓をこゝまつゝみ給氏玉をゑ好ぎから
（居直ル袖サシカガラ）ゝは氏ありとうこゝろ〳〵〳〵としてとき
（ワキ向）くゝ力をそゝ（袖下ゲシカウキヘコトハリ）汀とやくそゝ〳〵
（正直シナガラサレ処ス稼ニ前条ヘ出シ見右ノ下メノケテ見ル）ひとゝ川の利波を思きそつく（正常見）

（正ニツカ〳〵ト出）
（上右ヨノリ込）波路庭よ（ヒラキ）（正上ヲ見）
（面イロス心ニテ左ヘ廻リ）の浪煙のおゝをおのきつゝ海ゝんゝ〳〵と
（カ方見処ニ夫ナリニツカ〳〵ト正出足トメ）ゑけのて（正先ニテ下タヲ見）
（ツシ先引心ニテトクトトメタヲ見）庭先おゝ〳〵（面直ス右廻リ）かしと
りそゝ〳〵思海庭よそそ（シ様先ニテ処リ下リ）津波八ゝ（モツ処リ）
（正ヒラキ）波ゑ奴ん多八ゝ安ゝ（シツカ中ヘ行）かくて誘ふゝ
（左ヲカケテ正向正ニヲ見早ニガラ静ニ正先出）いふてゝ（左ヲ打ケテ左ヘ廻リ）ゝをゝんハさるさゝ平犬の
玉様よ波玉をこめおき（直ニ角行）多気をそゝ〳〵
（角下リ少シ右方ヲ向ヒ見）ち渡ゝ八ゝ（夫ヨリ後ニ見処ニシテ）ゝ（シツカニ左ヘ廻リ）
（ワキ）ゑよめにのうれ〳〵〳〵やとゝ（シ様ニテ）帝さん
（右ノ方向ニ足下リ面下ヘ心持ニ体ヲ傾ケ）（面下ヘ心持ニ体ヲ傾ケ）思ひ（モ）の姫ゝさゝとの方をゑ〳〵ま（面直シ向ヨシカ上見シツカニ三足ツヽ）あの浪
のゝ（右ノ方向ニ足下リ面下ヘ心持ニ体ヲ傾ケ）ゝ様ゝ八ゝ有りん又大原をお
（左シテ左ノ足リ）ゑゝらん（正直シ）ゑゝそゝ比ゝ〳〵ふゝんをそゝ（正）
ん姫〳〵をゝとなみゝゝゝて立〳〵う又

海士

装束之覚

初 面 深井近江女 襟浅黄 着付花色ノ小袖 腰巻縫入箔
腰帯縫入 水衣白ノ浅黄ノ 鎌 白色扇子黒骨
ふくら 団帯白色 ミル杉ノ葉ヲ用ユ 水衣ナシ腰巻ヰニテモ
後面ヨリ ふくら 団帯 ふくらの裏 着付白地箔赤地ふくらの裏
大口紫ノ 舞衣 黒垂 腰帯 ツヽ紅扇
笠 許状ニ及トモ
子方 着付箔 白大口 狩衣 腰帯 小形烏帽子
白骨扇

子方之附

・次第ニテ出ヲヰト向令次第不論地次第ニ正・ゐ〳〵処向合・海士定ノ如ク小袖ト濃切リ正・先ふくらノ左ノ一ツヲ坐ノ行床机ニカル・ヤあそ社シテ へ・ヰヲ脇リテ右ニテシホル・ゐ〳〵処ヲ柳ヲ中ヲヨシテ へ・ヰ一ヲ処モ正・ヲノ一ハシテ へ・ヰ一ノ後ヲ右ニテシホル・実ノ名ヲふくら正ノ直ス・柳ヲそ中ヲ多モシテ へ・地笨ノ沿扇ステシテ扇後ヲヲ取リ・ヲ流ノ下ニ正ノ直ス・ヰ一ノ後ヲふくら真正面ヲヲ見テ謡出ス・いさ吊ヲん扇ヲ左ミ本ノ通リ直ス・右ヲくヲ持クシテ へ向・海士正・シテ笠持来ル時シテ へ向左ニテ笠トル・タツハイ舞ニカルト正向・初段ヲ笠ヲ左ミ懐中スル・ゐ〳〵処ノシテ へ・返シ正・終リシテノアトヨリ入ル

・海士ニ段ヲリトスヿ一ヲ之変出羽ニ段カヘシトスヿアリ習ナリ
・海士ニシホリヲリトスヿ一ヲ之由市十郎ヤ止ル
・すてゝふくらふ松ゐ〳〵此文句高安流ニテハワキロニウメヘ尼観世流ノトキハヤハリ観世流ノ通リ地ニテウタイワキロニハウタワセズ

中ヘトリ正先出経ヲ前出シ例チニテ上ル 右ヘト尼ヲカイシテカラ右ヘ中ヘトル
深迷菩提ゐ遍
照於十方 世界浄法ヲ男おら十二
八十種好 用荘厳法ヲ 天人不
口経ヲミナガラ 手ヲ前行ノ如ク ヒラキ経ヲ前出シ例チニテ
ヲヲ見ル 手ヲ下ヘシテ
ヲヲ見ル 挟キワテ子 やおロ 今ノ 氏種の性用ヲそ〳〵 大左右
ヲヲ見ル 手ヲ前ニ 手ヲ下ヘシテ 打込ヒラキ
正ニ重ヒラキ
シテカラタツ
ハイ舞テル
八紘人無非くかいこうくんひ誘女成佛
ワキ坐ニテ左ヲ引手ヲ見 左ヲ中ヘ行
初ヲそ海刹を成寺と 尼ヲ中ヘ行 ゆ〳〵毎事
正ノ前ヲゲテカラ立ニ出 肩右下リサシ立ニ右足リシテ挟ノキワニテ正ニヒラキ
八緒相ゆの勤り佛法そん ゆ〳〵
柚カヘ右ヲケトメ柏子
の ゆ花とおこそこの孝養とう
けゆる

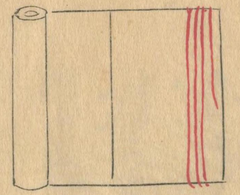
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

女「おことは此浦の海士にてあるか
シテ「さん候此浦乃つきの海士の子にて候
ワキ「かつきする海士ならば水底の見る
めを刈て参らせよや
シテ「痛はしや
旅つかれの御さまにて候ぞや
我まさ母て罷に御かくれ候
田舎乃者くたりけるやさしき人
とみるめを刈まいらせん
しほみるめを刈まいらせん
いやく
左様乃為ならばおそれ乃底
乃月を御らんせよみるめを
申さるゝこなたハ房前の大臣よ
との御諚なり
シテ「扨ハ月乃やうな

あらありがたの御諚りや昔もさる
ためしあり明珠とこ乃おきにて
く龍宮へとられしをかつきあげて
も此浦のあまなり月もみち潮
乃く見るめとゝさやうふよ
シテ「指何也明珠とかつきあけしも
此浦乃海士にてありしとかや
シテ「さん候
此うしのあまなくゆかりあまに前つ
里とハおもへとそかの海
士人の身とて海ひしたふくぢま
こゝ見なる鴻ハ侍る海とさりつの
わきもかくみえつめしよまつてお
ワキ「いそくしてたまゝ鳴くふしきなる新珠

△地次第ニクツロキミルメヲ後見坐ニナゲシテ右ノ方ヘツカヘト出

鴻臚館は 「梅」正 その玉乃名をは何
ぞと申まをすに 「玉」シテ 中に釋迦の
像をし安置とぞ申すに 玉をもつてこれを
置ことをおもひ面なるにより
ワキ 「ものとをむかふまうけにかくて
面向不背乃珠と申は 「ナカレ」正 か渡
乃寶と何ぞくが漢朝よりも
「シテ」 今の大臣渡海云
うしなるう

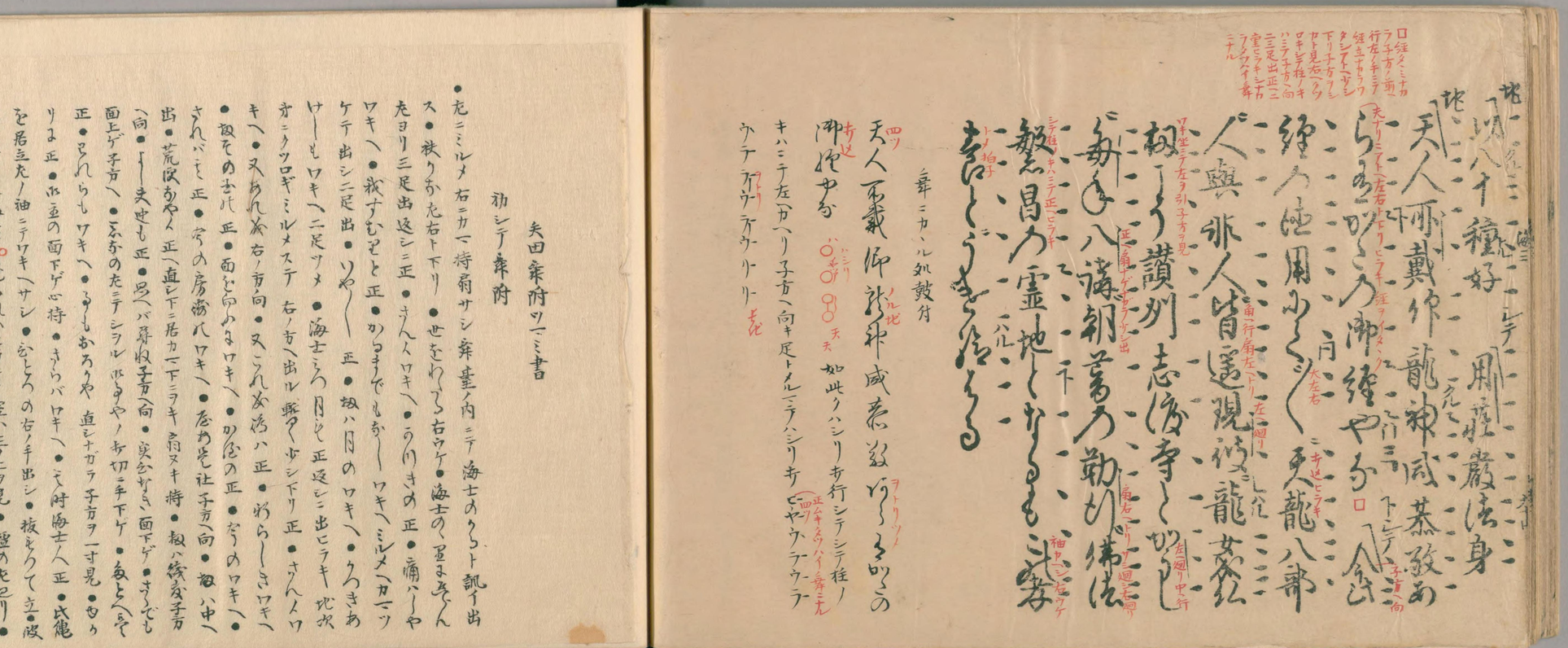


如此ノ紐ヲ經ノ
袖ヘ卷キ軸ト袖
ト両方ヨリ卷寄
セ持チ出ル

向不背乃玉ニ乃爽ハ京著し
向珠ハ此仲まく龍女へ与まし
とぞ 「ワキ」 大臣御身と座つし此浦より
里遠ひ中き海士もめこ契
とこめこ人の御子とまふぐ今の身
嬉乃 「ワキ」 大臣 「二足ツメル」 見なり 大臣 「子方ノ謠ヲキイテ子方ヲ見テ」 「座」の見しを
「二三足下リ子方ヲシカト見」
房 嬉乃大臣よおろ 「シテ」 の事
なりやなく候へ 「シテ」 あら
何ものなやこ今までハなのの事を
こそ思ひつるに 「梅」 気ヲ引立子方ヘ気ヲアケテ中ヘ行 御子 「面下ケ下ニ居正ニ直シアニステ」ル 「面ヌキ持正向大臣ノ詞ヲキ居ル」
まくるひきるそやあら 「シテ」 便なやは
大臣 「ノルニ」 見つる大臣乃御子とは
ひらきし 「ノルニ」 君の心よりかる
るはこの身の 「ノルニ」 母思ひ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



矢田染附ツヽミ書

初シテ舞附

●左ニミルメ右ニカヽ持前サシ舞壹ノ内ニテ海士ノうト飢ヶ出ス●秋りかた右ト下リ●世をわくる古ウケ●海士の里まそん
左ヨリ三足出返シ正●さん人ロキ、●この川きめ正●痛ハーや
ワキ、●秋すむそと正●かるまでもなし ワキ、ミルメ、カヽツ
ケテ出シ二足出●ソや、、 正●扨ハ月のロキ、●クろきあ
けーもロキ、二足ツメ●海士ろ月そ正返シニ出ヒラキ地次
オニクツロギミルメステ 右ノ方へ出ル 拵ヘヽサシ下リ正●さん人ロ
キ、●又あれ為右ノ方向●又これ為ハ正●物らしきロキ、
●扨その古代正●面を向かなロキ、●かゐの正●なめロキ、●
されバこそ正●その房海人ロキ、●為ゆえ社子方へ向●扨ハ中へ
出●荒波ありやノ正ヘ直シ下ニ居カヽ下ニラキ前ヌキ持●扨ハ袂を子方
へ向●よ、夫迄も正●ゑバ舞収子方へ向●実会なき面下ゲ●さうでも
面上ゲ子方へ●云かのたニテシヲル●やノ事切ニ手下ゲ●為とゝろで
正●されらもワキ、●もおろや 直シナガラ子方ヲ一寸見●ゐり
リよ正●ホ亜の面下ゲ心持●さらバロキ、●え附海士人正●式鬼
を居立ノ袖ニテワキ、サシ●ふとろの右ノ手出シ●扱をろて立●波
正先ヘノリ込 海をまねく ハニラキ 室ハ正ノ上ヲ見●燈のたゞリ●
かいまゝと大小ノ前ニテサシワケ引入りて正先ヘ出 直下と下ヲ見
たヲ引シカト見●ゑうも右ゑリ●いさゝ波ハシテ柱ノキワニテ正ヘヒラキ
●かくて中ヘ行●文中を正ノ上ヲ見●三十文の正ヘ出カケ●波まを左引
ムチサシヒラキ●老花を角ヘ行●八段来居ろ左ゑリ●見廻しのシ
テ柱ノキワニテ右ヲ見●あの波此右ヘ出ヒラキ●左ふても面下ゲ
右ヘカク廻リ●波々ミて正ヘ向ガラ左ニテシヲル●又呂ハ切て手

下ゲ右ヘヒラキ 両手ニテヲガム ● 南無や志度ちの観音さんしの力を
合をてたひめんとて 扇正ヘ出シ見た引扇 右ノ手アゲ取サシ 正先ヘ出
● とひのれハたヲノリ込 左右ヘ左右ト引た右ヲ見 ● のいしうるノけノ
字ノヘヨリ 正ノ下ヲ見中ヘ出右ノヒザツキ 扇ヒラキ スクイタル様ニメ両
手ニテ持立 ● 盗れてノてノ字ヨリシテ柱ノ方ヘ行 ● ち復非左ノ方フ
リ返リ見 ● おつかく 右ヘトリ中ヘ出 ● 持たる扇折返シ逆手ニ持腹切タ
ル様ニシテ右左ト正ヘ出た引右ノ足カケモヂリ ● 扨を持てぞ扇ステ下ニ安坐
● あらうまた右見 ● 約束の扇タヽミ三ツ程フリ ● 海上小立 ● 扨こそ子
方ヘ向 ● 母あまへの二足ツメ ● 剣返シニ扇持直シ子方ヘ扇渡スを一寸下ニ居
● 今ハ長人立たニテシヲリナガラ シテ柱ノ方ヘ行 ● 愛人の手下ゲ向ヲ下
たヘトリ子方ヘ向 ● 波のそこま正ヘヒラキ返シニ入ル

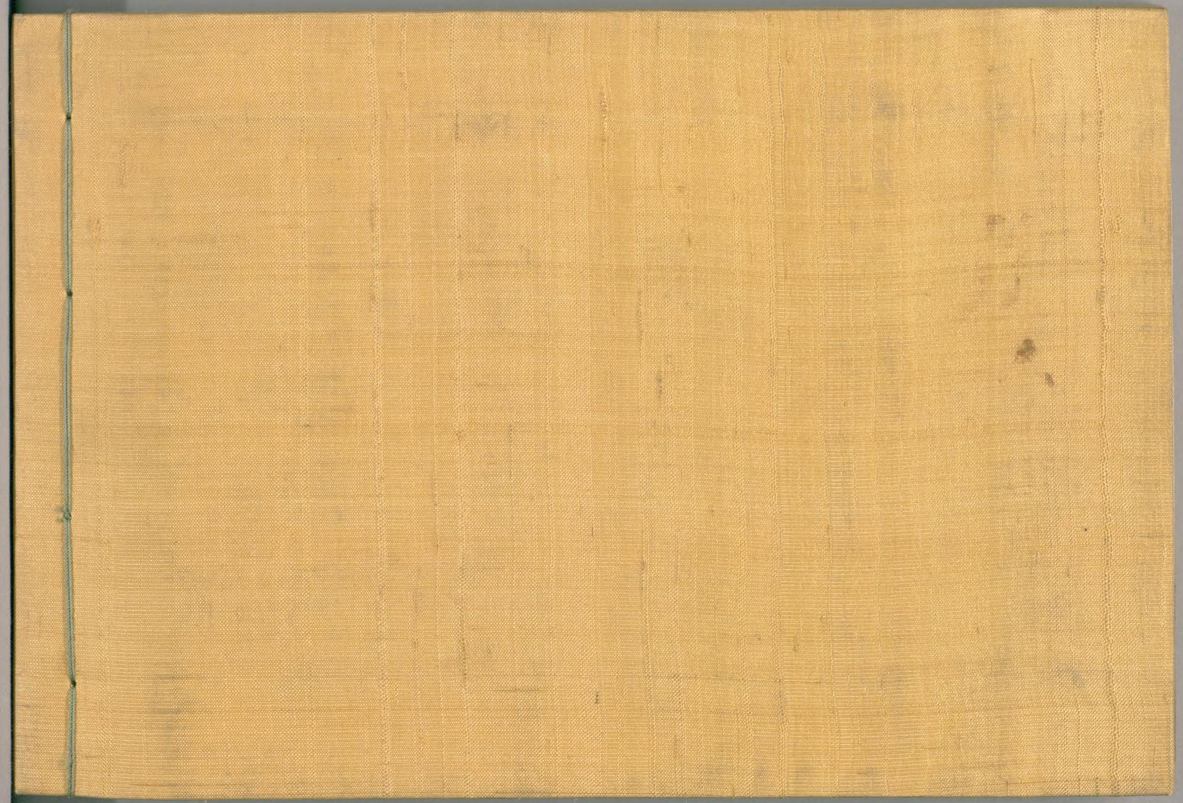
後シテ舞附

● 左ニ経持 橋ガヽリ一ノ松ニテトメたリニテサシ 舞臺ヘ入ル但シサス時ぞ
やく傍くト訓フ シテ柱ノキワニテヒラキ 何〳〵有ゝのト訓フ ● 此ノ経
経出シ見 ● 又逆の直シ ● せうを変る子方ヘムキヒラキ ● 深達花
復ね中ヘ行 正先ヘ出経ヒラキ見 ● 咸恭敬アトヘ三足ホド下リ経
イタヾク ● 此経やおト謡切リ子方ヘ行ナガラ経タヽミ子方ヘ渡シ少シ
下リ子方ヲシカト見 右ヘトリシテ柱ノ方ヘ行 シテ柱ノキワニテ子方ヘ
向正ヘナヲシヒラキタツハイ舞 ● 今此経の子方ヘ向 徒用ノて
右ヘ向大左右 ● 人與折込ヒラキ ● 皆遥尺被 右ヘ二足出扇たリヘト
リ左巳リ ● 扨アそ 子方ヲ一寸見 ● 志度ちと中ヘ行右ヘ向 ● 八講
観音の扇正ヘナゲ扇右ヘトリサシテ右ヘ巳リ シテ柱ノキワニテ
正ヘヒラキ ● 此孝養と袖返シ 右ヘ向トメ 拍子二ツ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用